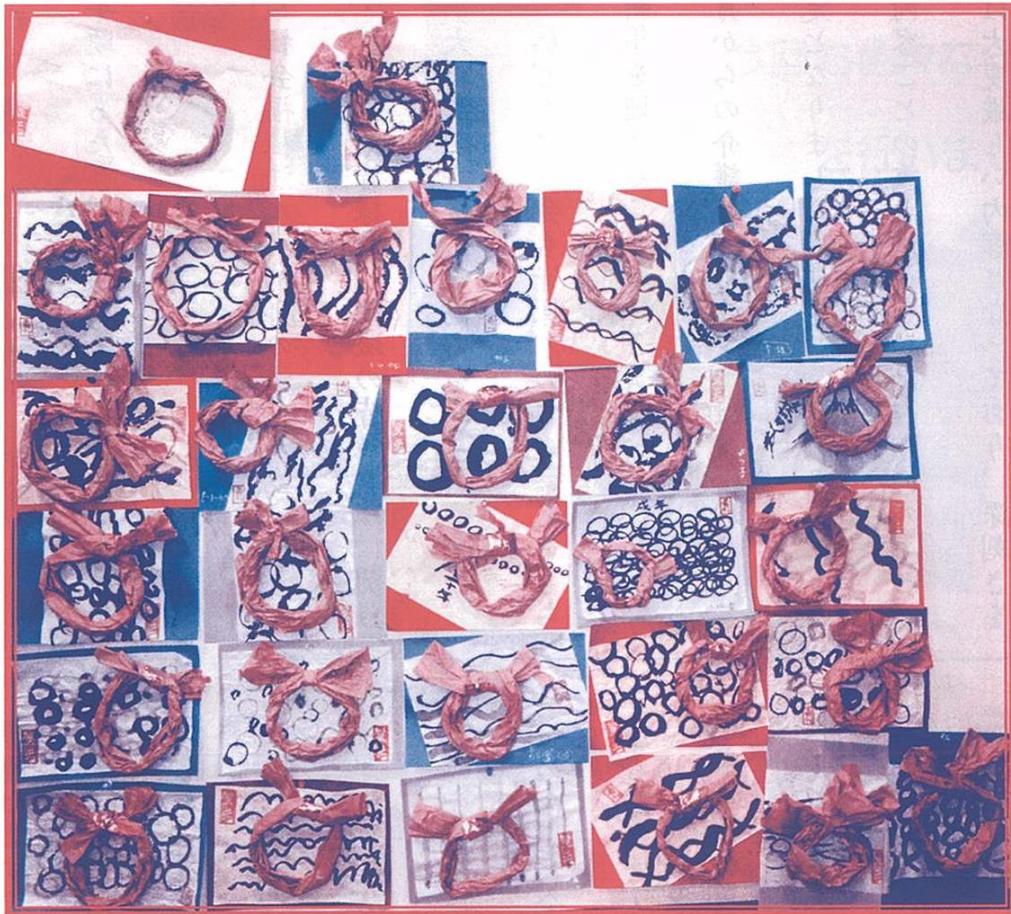


ふれあい新聞

新年号



くわがいデイサービスセンター利用者様一同作
～迎春準備～

発行日 平成 30 年 1 月 1 日 第 68 号

発 行 社会福祉法人 瑞穂会

ふれあい新聞編集部

本 部 〒444-0936

岡崎市上佐々木町字大官 49 番地

TEL (0564) 34-3666

FAX (0564) 34-2347

～新年のご挨拶～

平成三十年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、私たち社会福祉法人瑞穂会の法人・施設運営に対し、ご利用者・ご家族の皆様方、地域の皆様並びに関係諸機関の皆様の多大なるご支援・ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。私ども瑞穂会も皆様方のお力添えをもちまして、無事に新年を迎えることができました。

さて、本年4月からの介護報酬の改定では、平均0・54%のプラス改定となりました。プラス改定は6年ぶりで

すが、サービス内容ごとの重点化・効率化の方針のもと、事業所によつては大変厳しい内容となつております。深刻さを増す介護人材の確保問題等と併せ、今後の法人・施設経営

環境はますます厳しさを増すばかりです。

このように、今後も引き続き厳しい経営環境が見通されますが、瑞穂会は昨年5月には当法人4か所目となる「小規模特別養護老人ホーム第三やはぎ苑」を、第二やはぎ苑北側隣地に開所させるなど、ご利用者の皆様、地域の皆様及び関係諸機関等のご期待に沿うよう、地域福祉の向上に全力で取り組んでまいりますので、本年も更なるご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様方のご多幸とご健勝を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

平成三十年 元旦

社会福祉法人 瑞穂会

理事長 手嶋 寛人

～ 面会の皆様へのお願い ～



瑞穂会では例年通り、感染症対策として面会の皆様には
面会前のエタオル手指消毒・うがいをお願いしています。
また、発熱や咳などの症状のある方につきましては
面会を自粛していただきますようお願い申し上げます。
今冬は昨年7月から8月にかけてオーストラリアで流行した
「H3N2型」劇症型タイプのインフルエンザ流行が懸念
されておりますので、皆さんもご注意ください

事例研究発表会について

介護主任 岡田 進太郎

くわがい

十二月のくわがい特養全体会議で、各ユニットで今年度取り組んだ事例研究発表会を行ないました。今回の事例研究のテーマは「自分で食べることを大切にした食事ケアを考える」として、食事に関する各ユニットの課題と実践計画を立て8月からの3ヶ月間の取り組みを発表しました。

各ユニットの取り組みテーマは以下の通りです。

◎ 宙組 「食事に集中し、食べこぼしを減らして自力摂取できるようにしよう!」

◎ 大黒 「食べこぼしを少なくし、食事量を確保していきたい」

◎ 穂の花 「食事を楽しく食べていただくことへの取り組み」

◎ ショート 「五感で美味しい楽しく食べよう!」

◎ 空 「ご本人のペースで安全に満足して食べていただこう」とへの取り組み」

◎ 歌丸 「帰宅願望や生活への意欲低下により、食事を摂らなくなつた方が食欲を取り戻すまでの援助」 ～歌丸おにぎり物語～

平成16年にくわがいが開所して以来、このようない形で事例研究の発表会を行なうのは初めて

くわがい

のことでしたが、各ユニット限られた時間の中で試行錯誤しながら、精一杯取り組むことができました。

今回の事例研究では、食事が自力摂取困難であった方が、姿勢を整え、ご本人に合った自助具を活用することで自力摂取ができるようになつたりとたくさんのが成果を得ることができましたが、一番の大きな収穫としてはユニットの全職員が真剣に対象の入居者様のことを考え、どのようにしたらその方にとつて美味しく楽しい食事になるのかを検討し、ひとつの目標に向かつて全員で取り組んでいく機会を設けられた」とだと考えています。

特養入居者の重度化が進み、今後ますますケ

アの専門性が問われていく中で、今回くわがいの具体的な運営方針のひとつである「自分で食べる」と大切にした食事」について基本に立ち帰り考えることができたのはとても良かつたと思います。課題をア

セスメントし、解決に向けて計画を立て実行し評価していく。自分たちのケアで、入居者様の生活をより良いものにしていくという介護職としてのやりがいや喜びを改めて強く感じることができた事例研究発表会となりました。



内部研修報告

「食事の介助と誤嚥性肺炎」

日時 12月7日

場所 やはぎ苑1階 会議室

2階 介護職員 野村美穂



私は何もかもが初めての事ばかりでしたが、誤嚥性肺炎が死にも繋がることや、口腔ケアが様々な病気を防ぐ」と等とても勉強になりました。ところみをどの位つければ良いかよくわからなかつたのですが、つけすぎても詰まらせてしまつ」ともある」とや、実際に何段階にも分けてところみをつけ、それぞれのところみがどの位の速さで流れていくのか見る」ことが出来てとても参考になりました。

ただところみをつければいいのではなく、その人それぞれに合つたところみ加減を常日頃から注意深く見ながら覚えていかなくてはいけないなと思いました。



お餅つき

「よいしょー・よいしょー・」

2階 介護職員 谷口智規

やはぎ苑では、12月1

5日の午後、この時期の恒例行事「餅つき大会」を2階テイルームに於いて開きました。

昨年は、ついた餅が柔らかすぎて失敗してしまいましたが、今年はそのりんごに燃えて、魂を込めてつきました。

そして何よりも入居者の皆さんをはじめ、ケアハウスのみなさん、グループホーム入居者の皆さんとの「よいしょー・よいしょー」と言う大きな掛け声で最後までしつかりつくり」ことが出来ました。

早速つきたてのお餅をたべてもらい、皆さんのが「おいしい、おいしい」と言つて食べている様子を見て、「何とか今年は皆さんに喜んでもらえるお餅がつけたかな」とほほとした途端、急に疲れが出てきてしましました。

これからも毎年おいしいお餅がたべられるように頑張りますので楽し

地域ケア会議



日時 平成二十九年十一月一日
場所 やはぎ苑

やはぎ苑地域包括支援センター 井田侍子
西部包括・はじめ包括・やはぎ苑包括合同で、やはぎ苑にて
「地震災害に備えた地域支援者勉強会」が開かれました。

参加者は、岡崎市市議会委員 井町圭孝氏をはじめ、矢作
南学区総代、民生委員児童委員協議会等多数の「参加をい
ただき、地震災害時の関心の高さを感じました。

勉強会では、防災課職員による避難所運営ゲーム（HUG）
説明後、グループごとに、避難所で起き得る状況の理解と
適切な対応を学んでいただきました。その結果、地震災害が起きた時実際にどのように避難所運営をしていくか話し合い、次々に出される課題に即座に対応していくことはとても難しいと感じました。

ゲーム終了後、防災課職員より、

- 1 避難所運営は避難してきた人で行う
- 2 事前の準備が大切
- 3 その人に合わせた対応が必要

と説明されました。

そして最後に、長寿課職員・市議会議員の方より、

「このような避難所を運営するにあたり市と地域との協力や互助・
支えあいが重要となるため、今後も様々な状況を想定して避難所
運営を考えていきますので、地域の皆様のご協力お願いします。」
と締めくくられ、今日参加された地域の皆さん、「近い将来起
り得る大規模な自然災害に対し冷静に対応することの重要性を再
認識して勉強会は終わりました。

かみさの家



当日の天気も快晴に恵まれる中
みんなで いざ! 出発!
寒さにも負けず咲いている
可憐な花を見て、心もほっこり。
暖かい季節にも行きたいですね♪
(11月15、16日)

- デンパークへ行ってきました♪
- ・紅葉狩り
 - ・巨大なツリー
 - ・花の鑑賞
 - ・大きな花時計
 - ・みんなでお弁当



さつま芋収穫祭をしました♪



島坂保育園の園児を招待して、
一緒にさつま芋堀りを行ないました。

「こうやって掘るだよ。」 教えながら一緒に掘られていました。



掘ったさつま芋を見て、
「大きいね！！」と
皆さん驚かれていました。

(10月27日)

南小学校の文化祭に作品を出展しました♪♪♪



この日の為に、1ヵ月間、毎日
コツコツと作品を作っていました。

「あ、私たちの作ったものだ！！」

展示してある作品を見つけて、
声をあげて喜ばれていました。



展示作品の前で「パシャ♪」
(10月28日)

クリスマス会をしました♪

萌ユニット・ぽかぽかユニット全員で手作りの手毬寿司に手作りのケーキを食べました。みんなで机を囲んで食べればさらに美味しい！ みんなでワイワイ楽しい時間を過ごすことが出来ました！



美味しいご飯の後は…

サンタさんもそりに乗ってかみさの家まで来てくれて、利用様一人ひとりにプレゼントを渡してくれました。

ありがとう！サンタさん！
(12月25日)

第二やはぎ苑

第二やはぎ苑と地元の農家さんとのお米作りは、年数を重ねるにつれ、ご利用者さんや地域の皆さんにも年間を通して参加していただくお米作り、そして地域の学校との連携にまで発展をしてきました。平成29年度のお米作りと、収穫祭の様子をご紹介します。

昨年の秋



レンゲの種まき

お米づくりは、昨年の稻刈りの時から始まっています。

春



レンゲ畑



田植え会



レンゲ草が、稻作に良い土づくりと、天然の肥料になります。

田植え会では、多くの地域の方にご参加いただきました。

小さな子どもからお年寄りまで、みんなで稻を植えていきました。

夏



かかしづくり



すげ縄づくり

昔は生活の一部だった[かかし]や[すげ縄]も、今は珍しくなりました。輪になって作業をしながら、昔の思い出話に花が咲きます。

秋



稲刈り会



はさがけ

鎌の使い方、稻の束ね方を農家さんの手ほどきを受けながら、刈りました。今年は台風の心配をしながら、はさがけで天日干しをしました。

収穫祭



第二やはぎ苑・第三やはぎ苑 合同収穫祭

秋の収穫をお祝いし、第三やはぎ苑と合同の収穫祭を開催しました。

当日は、新米のおむすびや、地元産こだわり食材の豚汁、新米の五平餅、

無添加手づくり甘酒などを、ご利用者さんやご家族、また多くの地域の

皆さんにお楽しみいただきました。祭りの開催には、岩津高等学校の生徒さん、

愛知学泉大学の学生さん、地元農家さんにもご協力をいただきました。





小規模特別養護老人ホーム



第三やはぎ苑

誰？

誰？

誰？

ハロウィンパーティー



餅つき

餅つきに使用したもち米も当然農家さんの
作った無農薬です！

お餅をつく職員さんはみんなへたっぴいで
したけどね♥

でも味は抜群でしたよ。

寒かったけどおいしいお餅でお腹はほっこ
こになりました。

今回も色々なイベント
を行いました



収穫祭



収穫祭では農家さんの作った無農薬
野菜と味噌を使い、岡崎産の豆を使つ
た地元の豆腐に三河ポークを入れた豚
汁が大好評でした。



これからも色々なイベントを行い、ご家族や地域の方たちとの交流を交え
て、たくさんの楽しい思い出を作って行きます。

✿ — 楽しみにしていてくださいね — ✿

オレンジカフ工通信

編集後記

十一月十七日、第四回目のくわがいオレンジカフエはフットケア指導士による「転倒予防のセルフフットケア」をテーマに行いました。

皆さんもよくご存じの『巻き爪』や『外反母趾』など爪や足に何らかの異常があると、健康な方に比べて転倒するリスクは2・3倍になると言われています。まずは巻き爪にならない正しい爪切りの方法や、足の変形を防ぐ正しい靴選びと歩き方などをお話ししました。

続いてティッシュシュケースやフェイスタオル、スリパーコードなど身近な道具を使って足裏の筋力を鍛える運動をチーム対抗戦で行い、思うように動かない足の指に焦つたり笑つたり、大きな声援も飛び交い、大いに盛り上りました。

その後の交流会では、ゲームの興奮が未だ冷めやらぬ様子で、いつも以上に和気あいあいお茶とおしゃべりを楽しんでいました。

次回は一月十七日に開催です。是非お越し下さい。



その年の世相を漢字一文字で表す年末恒例の『今年の漢字』が15万3594票の応募のうち、最多の7104票を集めた『北』が選ばされました。選考理由については北朝鮮による脅威、九州北部豪雨による被害、天候不順による北海道産ジャガイモが不足、プロ野球・北海道日本ハムの大谷翔平選手がメジャーリーグに移籍し、早稲田実業高から清宮幸太郎選手が入団、競馬でキタサンブラックが活躍等が挙げられていました。

揮毫した清水寺の森清範貫主は『北』という漢字は2人が背を向けている姿を表している。同じ2人でも『仁』はお互い話をし、平和な世の中を築こうという仁愛に通じる。話し合いをしなければ思いは通じない。平和に向かつて努力することが大事だ』と感想を述べられた。

瑞穂会で働く私たちも関わる全ての皆さんと相互にコミュニケーションを積み重ね、皆さんの暮らしが平穏になるよう、日々努力していきます。本年もよろしくお願ひ致します。